

私たちの思い出の場所

くさの書店 草野義広さん



思い出の場所 募集中!



優秀な学生の皆さんに助けられています

父・草野政吉が昭和39年1月28日に、有限会社くさの書店を設立し、同じ年の7月に大橋町(現在の岩屋橋電停前)に店舗を構えました。その後、県立長崎北高校の教科書供給所になり、それ以降教科書の取り扱いは今も継続しています。

私は長崎大学経済学部のOBです。学生時代から本の配達など、店を手伝っていました。所属していた軟式テニス部の練習には、配達を終えた後遅れ

て合流する日も多く、先輩から「諏訪神社の石段をのぼってから来い!」と怒られたものです(笑)。

アルバイト生の中には、長大の学生さんも多くいらっしゃいます。2011年から2023年まで、数えてみると139人(長期のみ)もお世話になっていました。そして、ありがたいのは、学業と同じように仕事ぶりも優秀な学生さんに恵まれたことです。書店は定型化された業務がほとんどですが、色々な角度から物事を見ながら、マニュアル以上の仕事をしてくれ

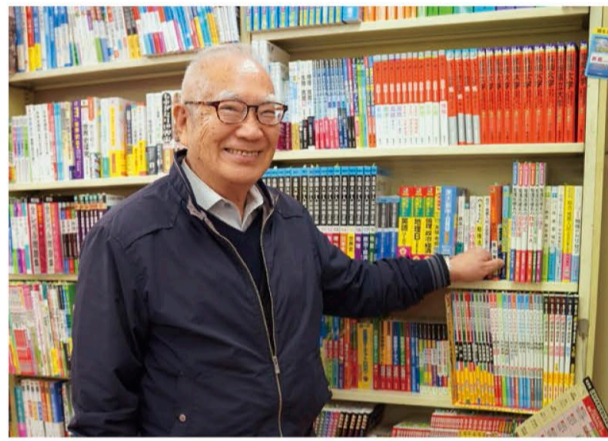
ます。中には、既存のチケット販売システムを合理的に改良してくれた学生さんもありました。私自身、配達に出ている時間が多く、直接交流する機会は少ないですが、気が合う学生さんとは飲みに行くこともあるんです。大学にはレベルの



大橋町で創業したときに撮影された1枚。現在、営業中の店舗は住吉の電車通り沿いとトトセピア内の2店舗。

高い図書館がありますし、ネット社会の今は小規模の書店で本を購入する学生さんは少なくなりました。今後は長崎の歴史に根差した古文書や書籍の史料

価値を判断できるような、特殊性のある書店になればと思います。そうすれば、学生さんや大学の先生方との接点が増えるのかもしれない。



お話を伺った草野義広さん(昭和45年卒業)。「学生の頃はあまり勉強しませんでした。通ったのは門だけです(笑)。経済学部OBの皆さん、お互い元気に楽しくやっていきましょう!」

アンケートのご協力をお願い

広報紙Chohoへのご意見・ご感想をお寄せください。

- ①面白かった記事 ②本紙に対する意見・感想 ③今後取り扱ってほしい内容 ④長崎大学からの情報発信全般についての意見・感想 ⑤本学とご関係 ⑥年齢 ⑦氏名(ふりがな) ⑧郵便番号 ⑨住所 ⑩電話番号を明記してください。



◎ハガキ/〒852-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学広報戦略本部 宛

◎FAX/095-819-2156 ◎メール/kouhou@ml.nagasaki-u.ac.jp

◎応募期間/第1弾(グラバー図譜カレンダー)2024年3月末まで 第2弾(図書カード500円分)2024年4月1日~6月末

読者プレゼント

アンケートにご協力いただいた皆様の中から、抽選で「グラバー図譜カレンダー」または「図書カード(500円分)」を各10名様様にプレゼントします。※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

第1弾 グラバー図譜カレンダー(2024年4月~2025年3月版)

グラバー図譜の中から、本学水産学部から、山口敦子教授らが選んだ12枚をカレンダーにしました。ぜひ手に取ってその美しさをご覧ください。



第2弾 図書カード(500円分)

Choho84号では「図書館」&「くさの書店」を取り上げました。本の電子書籍化が進んでいますが、実際に紙に触れその匂いを感じてページをめくることで、より一層の感動に出会うことができます。本をご購入の際には、ぜひ、思い出の場所「くさの書店」に足を運んでいただき、皆様の感動の一冊をお探しいただき、



Choho 直接送付サービス 受付中!



広報紙Chohoはその多くを、各学部同窓会様の会報誌送付の際に、直近の号を同封してお送りさせていただいています。そのため、読者の皆様には、必ずしもChohoを毎月お届けできないケースがあり、「前号のChohoも読みたい」「定期送付を希望」といったお声をいただいております。そこで、ご指定の住所へChohoを直送させていただくサービスを行っています。

上記サイトへアクセスいただき、ご登録をお願いいたします。皆様のご利用をお待ちしております。

編集後記

今回の特集は、長崎大学附属図書館の貴重資料とそのキーパーソンたちに焦点を当てました。数奇な運命を経たグラバー図譜、世界唯一の彼爆医科大学で奇跡的に焼け残ったキュンストレーキ、長崎のオランダ大通詞が序文を記した解体新書、これらの貴重資料の由来を取材するにつれ、そこにはキーパーソンとなった人々の後世へ知をつなごうとする強い思いが込められていることを知り、実はこれらは必然的に本学に残されたのだろうかという思いになりました。

解体新書の序文において吉雄永章は、オランダの最新医学書が日本語に翻訳され、医師を志すものが勉強し、天下後世にとっての徳になるだろうと感嘆し涙をこぼしたことを記しています。その思いは脈々と本学の教育研究に受け継がれています。今回登場した水産学部、医学部、経済学部を含む全10学部を擁する長崎大学独自の教育研究は、他にはない豊かな歴史と伝統を築いています。今回の取材を通じて、歴史を継承していくことの重要性を再認識しました。Choho84号が、歴史を繋ぐ1つの記録として後世に残ることを願っています。

(広報戦略課長 米田征徳)



Nagasaki University Choho

人を結ぶ 地域と繋ぐ [長崎大学チョーホー]

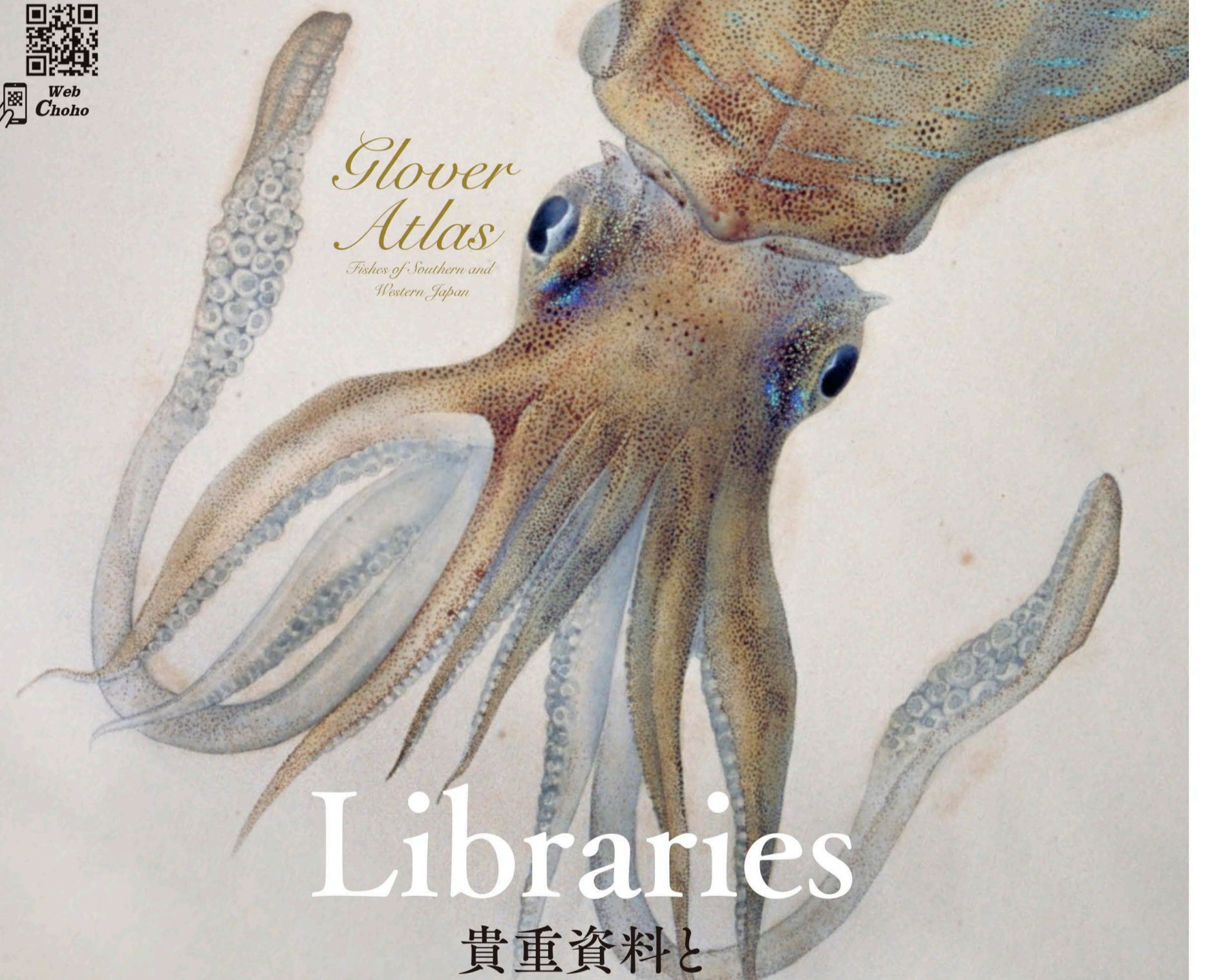
Vol.84

2024年3月1日発行

「人を結ぶ 地域と繋ぐ」をコンセプトに、長崎大学の思いや姿、描く未来などを共有し、多くの皆様に長崎大学へ関心をお寄せいただけるような広報紙を目指します。



Web Choho



Libraries

貴重資料と キーパーソンたち

かつて国内外の要人や専門家が集う、知の拠点だった長崎の街には、初めて見る物やコトが集まってきました。

そしてこの街で、実学を主として始まった本学にも、たくさんの貴重資料が、今も大切に保管されています。

折々に集められ、時には不思議なめぐり合わせによって入手された資料の数々。

今回はその中から、学内の3つの図書館を代表する貴重資料と、キーパーソンをご紹介します。

長崎大学SNSサイト



X



Facebook



Instagram



YouTube



Choho(チョーホー) Vol.84 2024年3月1日発行 Choho企画編集会議

長崎大学広報戦略本部 〒852-8521 長崎市文教町1-14 TEL.095-819-2007

長崎大学 検索 https://www.nagasaki-u.ac.jp/



中央図書館[文教キャンパス]所蔵

グラバー図譜

〈日本西部及び南部魚類図譜〉 ※見字はできません。図書館ホームページで閲覧できます

長崎に留められたのは偶然か必然か

まるでCGのように精密に描かれた魚たち。「日本西部及び南部魚類図譜」(通称:グラバー図譜)は、トーマス・ブレイク・グラバーの息子・倉場富三郎が、明治末から昭和初期にかけて約25年にわたり、長崎に水揚げされた魚類を絵師たちに描かせ作成した魚類図譜です。一時、長崎を離れたこの図譜は、めぐりめぐって本学へ。どのような経緯があったのでしょうか。

1941年、日本民族学会創始者で魚類学者だった洪沢敬三(洪沢栄一の孫)は、南山手9番地の倉場邸を訪ね、図譜の閲覧をしました。その後、倉場は

1945年8月に自ら命を絶ち、遺された図譜は倉場の遺言を託された三菱重工長崎造船所により東京の渋沢の元へ。渋沢は保管場所について検討した時の心境を、このように綴っています。
～倉場さんが一生おられかつ愛しておられた長崎市にこの魚譜(図譜のこと)を永久に残すのが、同氏の素志にも合致するであろう～。

早速、長崎県知事を訪ねるも不在。たまたま教育長と話をしていた時に居合わせたのが、高瀬清長崎大学長(当時)でした。事情を知った高瀬学長が、設立し

て間もない水産学部へ寄贈を願い出たところ、図譜の所蔵地を当時同学部の所在地だった佐世保市ではなく、長崎市に限るという条件付きで許可されたのです。1950年11月に寄贈され、同学部が1961年に現在地に移転するまでの間も、長崎を離れることはなかったと思われま。倉場の思いを汲んだ洪沢が図譜を長崎に持ち込んだこと、その日たまたま知事が不在だったこと、その場に長崎大学長が偶然居合わせたこと。思いと偶然が重なり、この図譜は、中央図書館の貴重資料室で保管されることになったのです。



ホトビウオ (小田紫星画)



チダイ (長谷川雪香画)



インガニ (萩原魚仙画)



キーパーソン

洪沢敬三

日本銀行総裁や大蔵大臣など歴任し、経済人として活躍する一方で、民俗学や漁業史の研究など文化活動にも力を注ぎました。(洪沢敬三肖像/ウィキメディアより転載)

中央図書館が所蔵する貴重資料の中でも、唯一無二のもので。データベース上では図以外の部分はカットされていますが、原図では原寸のまま、または大きい魚類は縮尺を書き添えた状態で描かれています。



中央図書館 志波原智美さん(右)、浦さやかさん

フクロウ館長

中央図書館の入口で入館者を迎えるのはフクロウ館長です。2021年に浜田久之館長より特命を受けて、長崎大学附属図書館の広報特命館長に就任しました。もともと図書館に棲んでいましたが、夜行性のため姿を見た職員はほとんどいませんでした。月2回図書館ブログにて、書評エッセイ「フクロウ館長イチ押しの本」を連載中。



建物の変遷

改修前の中央図書館は、外階段を使って2階から入る構造でした。2012年に耐震・改修工事を行い、現在の形になりました。



改修前



改修後



キーパーソン

倉場富三郎

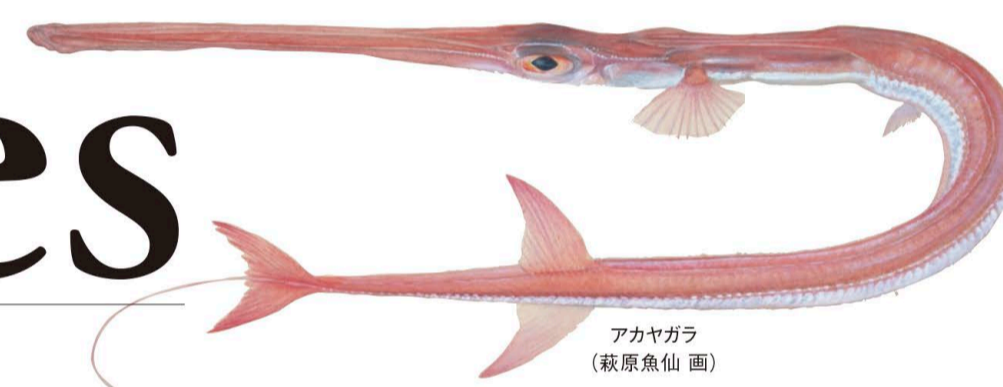
ホーム・リンガー商会に勤め、長崎汽船漁業会社を立ち上げて、日本に初めてトロール船を導入。当時、日本の漁業界に革命を起こした人物と言われています。(倉場富三郎肖像/長崎歴史文化博物館蔵)



カエルアコウ (小田紫星画)

Libraries

貴重資料と キーパーソンたち



アカヤガラ (萩原魚仙画)

附属図書館
電子化
コレクション
WEBサイト



医学分館[坂本キャンパス]所蔵

キュンストレーキ

奇跡の陰にある人物の存在があった



被爆前

左上半身あり

金属の支柱に、特殊な紙粘土をかぶせて造形した構造。腹部は観音開きになり内臓模型を収納。各部が取り外せるようになっていました。男性体とされていますが、右半身だけとなった今、性別の手がかりはなく、同種の人体模型よりも小さいことから、基本的な人体構造を学ぶための「無性」の標本であったと考えられます。

キュンストレーキとは、1825年にフランス人解剖学者のオズーが考案し発表した、人体解剖紙製模型です。本学の創始者ボンペ・ファン・メーデルフォールトが輸入し、1860年に日本最初のキュンストレーキとして、パリから到着。解剖が一般的ではなかった時代、人体の仕組みを学ぶ教材としての役目を終えた後は、解剖学教室の標本室で保管されていました。

しかし、第二次世界大戦中の原爆投下直前、何か胸騒ぎがしたのでしょうか。佐藤純一郎助教授(当時)は、キュンストレーキを、鉄筋コンクリート造の図書館書庫2階へ避難させたのです。原爆で図書館の事務室や閲覧室は全焼。資料の大部分は焼失しますが、コンクリートに守られたキュンストレーキは焼け残りました。発見時、左上半身は見つからなかったものの、胴体のほぼ4分の1と片脚、台座は無事で、今もなお自立しています。

国内に現存する同種の人体模型は、福井の2体と金沢の1体を合わせ計4体です。中でも、佐藤助教授の何かに突き動かされたかのような行動によって今に伝わるようになったこの1体は、特別なものと言えるでしょう。



キーパーソン

佐藤純一郎

原爆後、佐藤助教授が書庫へ向かうと、1階は一部火が入り足の踏み場もなく、2階は混乱に乗じて盗難に見舞われていました。窓は吹き飛び、書架も倒壊している状況の中からキュンストレーキを救出。自宅や教室などで保管し、学生運動が激化した頃に安全のため図書館へ移しました。(昭29長崎医科大学卒業アルバム/医学分館蔵)

原爆投下時の医科大学で、書庫は病院以外では数少ないコンクリート製でした。先生方が守ったキュンストレーキを、大切に保管していきたいです。



医学分館 松田綾さん

経済学部分館[片淵キャンパス]所蔵

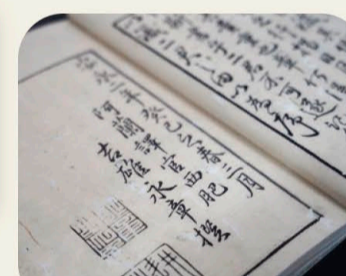
解体新書

〈全五巻 献上本〉

※どなたでも見学できます

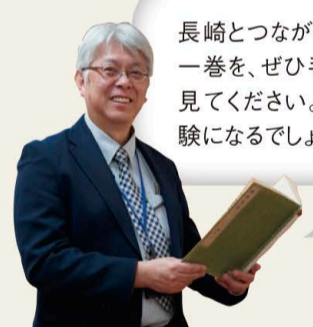


医学分館所蔵 初版本(左) 経済学部分館所蔵 献上本(右)



「阿蘭陀訳官西肥吉雄永章」のサインが入っています。

序文に記された長崎との知られざる縁



経済学部分館 宮脇英俊さん

長崎とつながりのある第一巻を、ぜひ手に取って見てください。貴重な経験になるでしょう。

国内最初の解剖学書として知られる『解体新書』。経済学部の前身である、長崎高等商業学校の名物教授だった武藤長蔵博士のコレクション「武藤文庫」の一つとして、図書館内の長崎学資料展示室に展示されて

います。武藤文庫は小さな図書館を形成できるほど、多種多様な書籍がラインナップされており、博士の興味が多方面に及んでいたことが、この資料の存在からも分かります。『解体新書』の序文には、「阿蘭陀

訳官西肥吉雄永章」の文字を読み取ることができます。阿蘭陀訳官西肥とは、長崎の阿蘭陀通詞(オランダ語の通訳)を意味し、吉雄永章の別名は耕牛。最高位の大通詞まで上りつめた人物です。耕牛の弟子で、杉田玄白らとともに『解体新書』の訳者の一人だったのが前野良沢です。しかし、本には訳者として名前は記載されていません。翻訳の完成度に納得していなかった前野自身が、発行は時期尚早と記載を拒否したと言われています。彼の名前は耕牛が書いた序文にのみ登場し、歴史に形を残すことになりました。様々な思惑が交錯する中、世の中に送り出された『解体新書』。長崎学資料展示室では、序文が入った第一巻を手にとって閲覧することができます。



キーパーソン

吉雄永章 (耕牛)

阿蘭陀通詞として活躍した耕牛は蘭方医でもあり、医学、天文、地理の分野など幅広く精通。弟子の数は1000人を超えていたと言われています。また、末息子の権之助は、シーボルトの通訳を務めた人物。ドゥーフホルマの辞書編纂でも有名です。(吉雄耕牛肖像/医学分館蔵)



経済学部分館が所蔵しているのは、一般の流通本ではなく献上本。医学分館所蔵の初版本よりもひと回り大きく、装丁が緑色です。

Research

[研究]



研究に関する情報は
こちらからも
ご覧いただけます。



Nagasaki University Research

水産学部
海洋物質科学講座
食品栄養学研究室

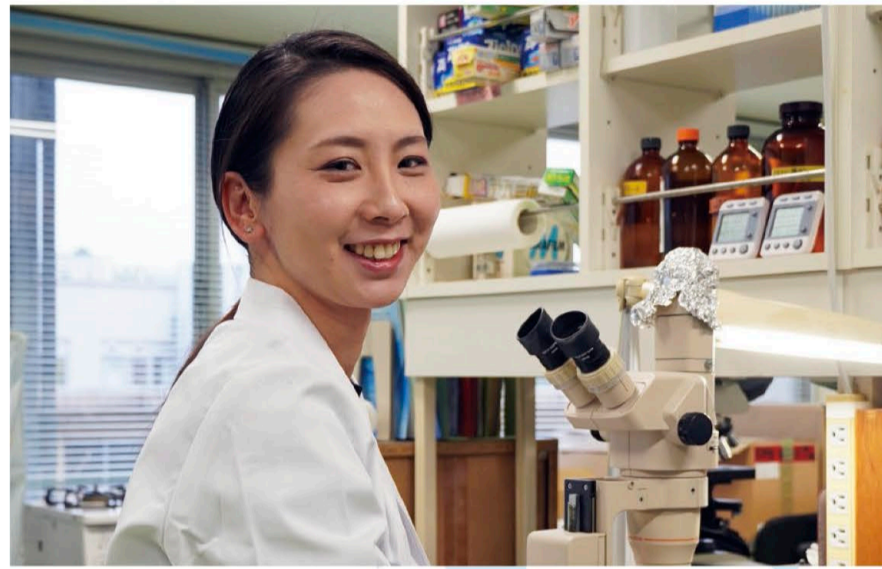
WANG Yao
王曜
准教授

時間が経っても活きがい！ 五島伝統の技術を“見える化”

水 揚げされた魚は素早くすることで鮮度が長続きする、ということをご存じの方も多いと思います。2021年、本学の水産学部と五島市は、「五島メ」に関する共同研究をスタートしました。五島メとは、先祖代々五島の漁師に受け継がれてきた、他の方法に比べより長く鮮度を保つとされている技術。本学の最新研究を導入し、この技術の“見える化”に取り組んでいます。王曜准教授のお話です。

「五島列島は、世界でも有数の大陸棚が広がる東シナ海に浮かんでいます。対馬暖流の真ん中にも位置しており、豊かな漁場で獲れる魚は、関西や関東の市場で高く評価されています。しかし、長崎の魚市場を経由してから全国へ出荷されるため、博多に近い志岐や対馬で獲れた魚に比べて、輸送時間やコスト増などデメリットも少なくありません。また、1993年には五島市に2751人いた漁業者が、漁獲量の減少や過酷な職場環境などを理由に、2018年には952人と約3割まで減少しています。」

五島市ではこのような危機的状況を踏まえ、五島産の魚の価値をより高めるために、五島メに着目。試験に合格した漁業者のみが、五島メを行える“五島メの匠”認定制度を設けたのです。さらに「地域ブランドとして、五島メ鮮魚の価値をより一層高めるためには、漁業者の高い技術に加えて、最新研究に基づいたエビデンスが不可欠」と王准教授。研究チームは現地へ足しげく通い、漁業者の皆さんとともに調査・実験を重ね、この五島メが、長く鮮度を保っていることを明らかにしました。



上海出身の王曜准教授。「五島で獲れた魚の刺身を初めて食べた時は、美味しくて感動しました。私たちの研究が、五島メ鮮魚のより高い評価につながれば嬉しいです。」

「天然のイサキ、ブリ、ヒラマサを試料にして実験を行ったところ、五島メ鮮魚を水蔵することで、白筋と呼ばれる身の部分の透明度が一定期間保たれ、鮮度の低下が抑制されることが分かりました。季節を問わず、生食(刺身)で最長10日、少なくとも1週間は問題なく食べられます。また、処理中に使用する海水の温度を下げることで、魚の品質をさらに保てるのではないかと仮説に基づいた実験も行いました。このように五島メの効果の数値として明らかにするだけでなく、大学が持つ知見を、先祖代々受け継がれてきた技術のさらなる進化に繋げていきたいと考えています。これからはお互いにアイデアを出し合いながら、五島メ鮮魚が国内外の市場で拡大するために、科学的な基盤を築くよう努力していきたいと思っています。」

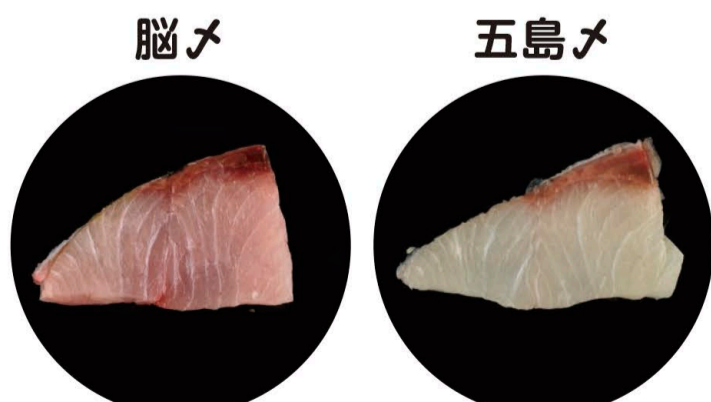
漁場に恵まれた優位性を、より一層活かしていくにはどうすべきか。地域を挙げた取り組みに期待が高まっています。



実験道具や機械を持参して現地へ。水揚げ後すぐに処理を行い、K値(化学的生鮮度の指標)などの成分の計測に入ります。実験は早朝から夜中まで続きます。



五島メ鮮魚で 離島のハンデを克服!



鮮度や形が良い魚だけに施される「五島メ」。延髄破壊、脱血、神経メ、冷やしこみの順序で行われます。写真は処理後7日目の切り身。血抜き効果は一目瞭然です。
※脳メ：脱血や神経メの処理を行わない方法

Circle

[サークル]

since 1973~ [落語研究会]

1人じゃない、繋がる思いと未来への新たな一歩

—まずは落語を始めたきっかけを教えてください。

馬渡さん 両親ともに学生時代から落語研究会に所属していました。今でも仕事の傍ら落語をやっています。私も物心が付いた頃から落語が身近になり、自然と生活の一部になっていました。

—落語研究会は創設50周年を迎えたそうですね。入部して感じたことはありますか。

馬渡さん やっぱ皆さんに注目される中、1人で高座に上がり笑っていた時は、幸せだと感じます。でも実は今、メンバーは私1人だけしかいません。なかなか若い方には受け入れられず、古臭いと思われているのかもしれない。1人で笑いを取る快感はとても気持ち良いですよ。

—1人で活動するのは大変ですね。

馬渡さん はい。でも、たくさんのOB・OGの方に支えられています。伝統のやわた寄席も、長崎にいらっしゃる先輩方のサポートのおかげで開催できましたし、昨年12月には、創設メンバーを長崎にお迎えした集まりにも参加しました。

—50年前のメンバーが長崎に集まったのですか？ それは凄いですね!

馬渡さん そうなんです。来られない方もおられましたが、20歳台から70歳台まで、多くの先輩方にお集まりいただきました。

—どのようなお話が印象に残っていますか。

馬渡さん 創設に至るまでのエピソードです。当時からサークルを新設する場合、メンバーを一定数揃える必要がありました。創設メンバーの鶴屋無学(高座名)さんが、お友だちを誘って

集まったのは3人まで。困っていたころへ、教養部(現在の教養教育)の黒板に「落研を創ろう!」という書付けがあると情報が入ったそうです。無学さんはすぐにその書付けの横に「我らも同じ志の者、一度会いたい」と書き置きしたところ、それを見た方々が集まり8人で創設に至ったそうです。

—今では、考えられないエピソードですね。

馬渡さん はい(笑)。でも、そうやって一生懸命このサークルを創っていただいて、本当に感謝しています。50周年記念イベントでは、日頃から私を支えてくれている先輩や、創設時の先輩方の温かい思いを感じました。たくさんのお

話を聞く中で、“自分は1人じゃない”と強く感じました。伝統ある落語研究会を自分の代で終わらせたくない、という思いに押しつぶされそうになっていた私に、先輩方は“自分が楽しいと思う落語だけをやって欲しい”とおっしゃいました。その言葉に涙が止まりませんでした。

—今後はどういった活動をしていきたいですか。

馬渡さん 気負わず楽しく落語をやりながら、ポチポチ進んでいきます。もちろん新メンバーも集めたいです。初詣で大吉を引いたので、なんとかかなるでしょう(笑)。後輩が入ってくれたら、一緒にお礼参りに行きたいと思っています。

Circle Interviews

学生広報
スタッフが
インタビュー



これまで落語と触れ合う機会はなかったものの、落語研究会が創設50周年を迎えたと聞き、この機会にぜひ取材したいと思いました。代表の馬渡通(高座名:麗し亭千春)さんにお話を伺いました。

村瀬晴香 教育学部4年

面白い気持ちが 良い落語をつくる

—裏方として、やわた寄席の運営をサポートされていますが、これまでもOBの皆さんが、手厚くサポートしてきたのでしょうか。

林田さん いえ。落語は聞きに行きますが、運営自体は学生だけで行います。しかし、さすがに千春(馬渡)さん一人では難しいので、昨年7月の寄席からサポートしています。

—一部の存続が危ぶまれています。どのような心境でしょうか。

林田さん 創設メンバーと確認し合ったのは、部がなくなったら寂しいけれど、伝統を守らなければいけないという責任を、彼女一人が背負う必要はないということでした。4年しかない大学生活ですから、楽しんで欲しいと思っています。

—大学から始めた落語が、林田さんのその後の人生の原点にもなったそうですね。学生の皆さんに落語の魅力を伝えるとするならば、どのようなところでしょうか。

林田さん 古典落語には著作権がありません。面白い気持ちと扇子と手ぬぐいと座布団さえあれば、成立するシンプルな芸ですし、お客様の想像力を借りながら成立させることも、テレビや演劇とは違う面白さだと思います。人前に立つきっかけにしたい方や、誰かを笑わせた方にとって、落語は入りやすい芸ではないでしょうか。大波が立つように、客席で笑いが起きた時は本当に感動しますよ。



創部年：1973年(昭和48年)
部員数：1人
活動日：火曜 18:00~

代表の馬渡通さん(環境科学部)。「鮮やかな演劇は代々、部には、着物も揃っているぞです。」



林田繁和さん(高座名:長楽亭凡太) 工学部出身。落語との出会いをきっかけに、アナウンサーの道へ。NBC長崎放送の看板アナウンサーとして、長崎くんちの中継を行うなど活躍。社会人による落語の会「長崎あざみ落語会」メンバー。



馬渡さんの“自分は1人じゃなかった”という言葉が印象的でした。このインタビューを読んだ方の中から、落語に興味を湧いて、伝統のサークルの門を叩く方が一人でも出てくることを期待しています。



年2回ペースで開催している長大落語研究会「やわた寄席」。昨年12月の第97回やわた寄席では、馬渡さんが口上を務めました。



50周年記念イベントでは、創設時のメンバーが長崎へ。知る人ぞ知るエピソードなど、思い出話に華が咲きました。

Saiyu Fund

[西遊基金]



西遊基金



OB/OGの皆様からのご支援に感謝します

以前のChohoでご紹介したサークル活動支援基金について、多くの反響があり、寄附のお申し出をいただいております。皆様からのご支援誠にありがとうございます。今回は実際にこの基金を通じて、寄附を受け取った部の顧問や現役学生のコメントを紹介します。



医学部弓道部

強くなった弓道部 西遊基金を通じて応援

長崎大学病院 腎臓内科 西野友哉 教授

長崎大学医学部弓道部では、現役部員たちの雑感などをまとめた部誌『銀箭』を発行しています。完成した部誌は、部員自ら県内のOB、OGを訪ね直接お渡しし、近況報告と併せてご寄附のお願いをしています。この活動は、私が弓道部員だった頃から続いている伝統ですが、研修医制度等の変



更後は県外に出るOB、OGも少なくありません。以前に比べて、先輩、後輩のつながりが希薄になったと感じる中、数年前、弓道場の建て替えを行うタイミングでメンバーリストを作成しました。

昨年10月、「全日本医科学生体育大会王座決定戦」が秋田県で開催されました。その前哨戦となる「西日本医科学生総合体育大会」で優勝を果たした我が弓道部でしたが、喜びもつかの間、頭を悩ませたのが、長崎と秋田を往復するための遠征費です。相談を受けた私は彼らに西遊基金の存在を伝え、メンバーリストで全国のOB、OGの皆さんに寄附を呼びかけました。その結果、短期



全日本医科学生体育大会王座決定戦で準優勝しました。

間で多額の寄附が集まり、無事に全国大会へ出場。さらに準優勝という、創部以来初めてとなる輝かしい成績を納めることができました。

対面で寄附をお願いする活動とともに、メンバーリストや西遊基金を活用し、特にクレジットカードで簡単に寄附できたこと

が、短期間でより多くの支援を集める要因になりました。加えて、弓道部の“強さ”も支援につながったのでしょう。ぜひ今後も勝ち続けて、先輩方へ応援に込めてもらいたいですね。ご支援をいただいた皆様には、いつか直接お礼をお伝えできる機会を設けられればと思っています。

ご支援ありがとうございました!

部長 福海直人さん

現在、弓道部は43人で活動しています。練習日は週3日と限られているため、いかに内容を濃く、効率の良い練習ができるか模索しながらがんばっています。全国大会には控えを含み7人で出場し、ご支援のお陰で競技に集中することができました。これからも弓道を楽しむ気持ちを念頭に置きながら、がんばっている姿をお伝えしたいと思います。応援をよろしくお願いいたします。



全学書道部



皆様のご支援により、筆を購入し、より良い環境を整えました。ご支援への感謝を忘れることなく、大切にに使わせていただきます。

水産学部端艇部



今後も大会で良い結果が残せるように、ご支援で購入したオールをフル活用して、たくさん練習を重ねていきたいと思っています。ご支援ありがとうございました。

龍踊部



ご支援ありがとうございます。これからも長崎の伝統芸能である龍踊りで、全国のたくさんの方々に元氣と幸せを届けていきたいと思っています。

CROWDFUNDING

クラウドファンディングを実施中 寄り添うチーム医療を目指して

長崎大学病院 がん診療センター長 芦澤 和人

長崎大学病院がん診療センターでは、がん診療に関わる医療従事者(医師を除く、看護師、薬剤師、作業療法士など)育成に必要な費用を得るため、クラウドファンディングを開始しました。

がん治療は医師だけでなく、がん診療に携わる専門資格を持った多職種の医療従事者も加わったチームで対応することが一般的になっています。チーム医療によって、私たちの目指す「不安を抱える患者さんに寄り添い、より良い形でがん診療を提供すること」が実現できるのです。しかし、近年がん患者が増加する一方で、その専門資格を持つ医療従事者が減少しており、COVID-19の影響により、その状況はますます悪化しています。そして、これは多くの病院が抱えている共通の問題でもあります。このままでは、私たちが大切にしている「患者さんの

ご不安に寄り添うチーム医療」を、十分な質で提供できなくなる恐れも出てきました。

この先も、がん診療のプロフェッショナルチームを中心に、がん患者さんに寄り添う体制を継続し、より良い診療を目指すためには、「人」の育成が不可欠です。がん診療に携わる専門資格を持った医療従事者の認定や育成、人数の拡充は喫緊の課題となっています。

しかし、がん診療に関わる認定・専門資格の取得のハードルは高く、また、高額な費用についても自己負担により対応しているのが現状です。

そこで、私たちはクラウドファンディングを実施し、広く皆様にご支援をお願いしたいと考えました。皆様のご寄附は、がん診療に携わる専門資格を持つ医療従事者育成のためのセミナー受講費用等

クラウドファンディング

期間：3月15日まで



多職種の医療チームが対応しています。

に活用させていただき、まずは10名の資格保有者の増員を目指します。

この人材育成は、必ずや地域のがん診療の向上につながるものと確信しております。がん患者さんにより良い医療を受けていただくため、皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

Homecoming Day

タイ・バンコクと中継した 初のグローバルホームカミングデー

ホームカミングデーは、卒業生・修了生はもちろんのこと、教職員や地域の皆様を対象に開催しています。大学の状況をご報告するとともに、無料の交流会(食事会)を通じて、交流を深めていただいております。

12回目となる今回は、令和5年11月4日に学園祭で賑わう文教キャンパスで開催。長崎会場に約140名、同時開催のタイ・バンコクのグローバルホームカミングデーには96名が参加しました。第一部では、永安学長から今後のビジョンについて発表後、大学の発展に貢献された相川忠臣名誉教授に校友会賞を、多大なご支援をいただきました方々に感謝状と記念品が贈呈されました。

講演会では、本学経済学部出身の秋本修治氏(極東ファティ株式会社代表取締役社長、日本スペシャルティコーヒー協会会長)が「劇的に変わりゆくコーヒー業界とファティのコーヒー戦略」と題して講演し、コーヒー好きな教職員から、起業を目指す学生まで幅広く楽しんでいただきました。



メインイベントとして、変面ショー(中国の伝統芸能)が披露されました。



大学のビジョンを語る永安学長。

Community Exchange Meeting

令和5年11月20日 長崎大学交流会を開催

永安学長が就任して初めての交流会を長崎市で開催しました。今回は、長崎市を中心に本学とご縁のある大学の取引企業代表者、関連病院、西遊基金寄附者などをお招きし、日頃のご支援に対する感謝とともに教育・研究活動の紹介を通じて理解を深め、ご期待やご要望を伺うことを目的に開催しました。

第一部では永安学長の挨拶に続き、鈴木史朗長崎市長にご挨拶いただきました。その後、永安学長から大学のビジョンについての発表があり、続く講演会では、大学院プラネターヘルス学環長の渡辺知保教授が「プラネターヘルスとは何か」と題して講演。第二部では、西遊基金へ多大なご支援を賜りました、医療法人慈恵会小江原中央病院名誉院長の今西建夫様へ感謝状を贈呈しました。

今後も県内外においてこのような場を設け、学内の情報発信を継続していきたいと考えていますので、多くの関係者の皆様ご参加をお待ちしております。



交流懇談会では、学生サークルよさこい部「突風」が登場。華やかな演奏に、会場全体が盛り上がりました。



ホームカミングデーは令和6年度も開催予定です!

いち早くホームカミングデーの開催案内をお届けします。校友会メールマガジンにご登録ください。

西遊基金

「西遊基金」は、長崎が長年にわたって培ってきた個性と伝統を基盤に、地域の発展から地球規模の課題まで、種々の問題を解決するための傑出した人材育成を目指した、長崎大学独自の修学支援、さらに教育・研究の幅広い支援を目指した基金です。



西遊基金に関する情報はこちらからご覧いただけます。

